

一般社団法人 福島原発行動隊

ウォッチャー報告  
2011年10月

## 原子炉設備の状況

- 1～3号炉すべて、炉底温度100°C以下
- 使用済燃料プール循環冷却。温度安定
  - 炉内の溶融した燃料の所在・形状、格納容器の不具合状況等が不明の為、手探りの冷却が続いている
  - 損傷した設備、設置された応急設備は、本来の耐震基準や設計管理基準を満たしていない。恒久設備が必要

## 滞留水

- 滞留水は累計128,140トン処理
- 水位は目標レベルを維持し、地下水への流出は防止されていると想定
- 護岸前面遮水用の鋼管矢板設置を着工
- 地下水侵入防止遮水用鋼管矢板の基本設計完了。(22～23m、10月末着工予定)

## 滞留水処理、廃棄物処理

- 滞留水のセシウム除去は、東芝製サリーと米：キュリオン社製が稼働。サリー増強完（仏：アレバ社製は原則休止）。
- アレバ社製からの廃スラッジは集中廃棄物処理建屋に保管
- サリーの使用済み吸着塔槽（10～15個/月発生）は吸着塔管理室で保管
- 逆浸透膜残液処理用の蒸発濃縮設備を増強
- 構内瓦礫はコンテナ保管（合計900個）
  - いずれの廃棄物も処理方法未定。
  - 滞留水処理廃棄物は100年の管理保管が必要

## モニタリング、除染

- 「汚染マップ」全国版を作成開始
- 除染のモデル事業を開始。中間貯蔵施設に関する検討を開始。ロードマップを作成中。

## 被曝管理

- 緊急作業員の被曝は、3/4月よりは大幅減少  
8月： 最大18.27mSv 平均 1.53mSv  
10～20mSv: 21名
- 被曝線量管理の充実、被曝後の健康管理のあり方についての報告書発表
  - 年間被曝量換算では、高線量被曝が見られる
  - 被曝作業者の最適配置は考えられていない

## 要員育成・配置

- 緊急作業従事者数大幅減少  
3月： 3,742人、 8月： 1,142人
- 7月21現在の作業員 2,894人中の東電374人  
元請け： 29社、 一次下請け： 169社  
二次下請け： 288社、 三次以下： 132社
- 放射線関係の要員を育成中  
東電： 3,000人、 国： 40人